

令和5年度

「心のバリアフリー」推進隊のきろく

◆心のバリアフリー推進隊ミーティング

第1回

第1部:R5. 6. 1 (木)

第2部:R5. 6. 3 (土)

委嘱状交付・
意見交換等

第2回 R5. 6. 24 (土)

第3回 R5. 8. 27 (日) 心のバリアフリー講座

第4回 R5. 11. 24 (金) 企画相談

第5回 R6. 2. 24 (土) 活動の振り返り



◆PR活動・その他の活動

・にじいろフェスタ R5. 7. 15 (土) 道の駅ふくしま

障がい福祉サービス事業所で作られた商品を販売する「いきいき！ふくしまマーケット」と世界のグルメが楽しめる「結・ゆいランチ」の連携企画である『にじいろフェスタ』にてPR活動を行いました。

また、いきいきふくしまマーケットに出店された事業者の方々に、販売されている商品や日頃の活動などについてお話を伺い、学びを深めました。



・とっておきの音楽祭INふくしま2023 R5. 9. 23 (土) 福島駅西口駅前広場・東口駅前広場

「みんなちがってみんないい」を合言葉に、障がいのある人もない人も一緒になって演奏、運営されている「第11回 とっておきの音楽祭 IN ふくしま 2023」で、PR活動を行いました。

「心のバリアフリー」をすすめるための3つのキーワードや行動するうえでのポイントを掲載したチラシを直接お渡ししながら、心のバリアフリーの理解促進に向けて、呼びかけを行いました。



・ ふくしまユナイテッドFCホームゲーム R5.10.8 (日) とうほうみんなのスタジアム

福島ユナイテッドFCのホームゲームを観戦される皆さまへ、「心のバリアフリー」をすすめるための3つのキーワードや行動するうえでのポイントを掲載したチラシをお配りしながら、心のバリアフリーの理解促進に向けて、呼びかけを行いました。



3つのキーワード

障がいの社会モデル	社会にあるバリア(障壁)は、間違った理解や環境・ルールの不備などにより、生み出されています。整備に時間がかかるものもありますが、一人ひとりの行動ですぐに取り除けるバリアもあります！
心(意識)のバリア	心ない言葉や決めつけ、差別・無関心な言動により、傷つく人や困る人がいることに気づこう！
知ること・気づくこと	障がいの有無、年齢、性別、国籍など、自分とは異なる様々な立場の人々について、関心を持ち、理解しようと努力しよう！ 「特性」、「様々なシンボルマーク」、「SOSのサイン」など、知っていれば気づけることがあります★

行動にうつすPoint!

- ✔ **まずは『温かい見守り』からOK!**
→人それぞれのやり方やリズムがあります。
温かい見守りの視線や空気は相手に伝わります。
- ✔ **困っていそうだなと思ったら、『声を掛けて』みよう!**
→ゆっくりとした口調で、「何かお困りですか?」「私にできることはありますか?」「～しましょうか」など

・ 福島市公共サインガイドライン作成に向けた「まち歩き点検」 R5.10.20 (金) 福島駅周辺

非常時においても、市民の方や福島市に訪れた方が分かりやすい案内版整備の観点から、統一した規格、色彩を目指す福島市公共サインガイドラインの作成に向けて、福島市バリアフリー推進協議会の委員の皆さまとともに、まち歩き点検に参加しました。

当日は、車いすを使用される方や視覚障がいのある方、外国籍の方などと一緒に実際にふくしまのまちを歩き、多様な視点から案内板の点検を行いました。点検後は、現状や課題についての振り返りにも参加しました。委員の方々の意見を真剣に書き留めたり、障がいやまちなかのバリアに応じたサポートをする推進隊の姿も見られ、これまでの経験を活かし、さらに学びを深めようという熱意が感じられました。



・「いきいき！ふくし秋祭り」（福島駅東口） R5.10.29（日）福島駅東口駅前広場

障がいのある人とない人の交流の機会を作ることや、障がい者の自立支援・社会参加促進を目的に開催された「いきいき！ふくし秋祭り」にて、心のバリアフリーの普及啓発活動を行いました！

推進隊が考案した啓発チラシを配布して呼びかけると共に、ポッチャ体験コーナーのお手伝いも行いました。来場された市民の方々とポッチャの体験を通じ、交流を深めながら、“共生社会”や”バリアフリー”に、触れるきっかけづくりに携わりました。

さらに、「心のバリアフリー推進隊」の活動について、会場全体に向け、マイクを使って紹介する機会をいただき、ご来場された皆さまへ広くPRできました。



・企画：すごろくで「心のバリアフリー」を楽しく学ぼう！ R6.1.31（水）子ども食堂

推進隊全員で意見を出し合い、【一緒に遊びながら、楽しく＆自然に「心のバリアフリー」を学べる】をテーマに「こころのバリアフリーすごろく『つながる』」を作成しました。

早速子ども食堂を訪問し、少しでも、心のバリアフリーを身近に感じてもらう「きっかけ」となればという思いで、興味を持ってくれたお子さんたちと一緒にすごろく遊びに挑戦してきました。

実際にやってみて得られた様々な気づきを今後につなげていきます。



▼心のバリアフリーすごろく「つながる」



▼活動を振り返っての感想（一部抜粋）

- ・心のバリアフリーを言葉にして伝える難しさを感じた。
- ・すぐに普及するものではないと実感した。
- ・急に変わることは難しいが、長期的に見て自分ができる小さなことから始めていく姿勢が大切と感じた。
- ・どんなバリアがあるのか、自分から学んでいかなければと感じた。
- ・心のバリアフリーを発信する目的は、幅広い年齢層の方に多様性や個を尊重する時代が変わってきていることを感じてもらう意味もあると考えた。
- ・他の自治体と比べると取り組みが進んでいると感じた。
- ・心のバリアフリーの情報は、まだまだ入手しにくいので、少しでも耳に入り、心のバリアフリーを知ってもらうきっかけを作ればと思う。
- ・活動のなかで、障がい当事者の方やそのご家族から直接お話を聞いたことで、普段のアルバイト先での対応など自分自身の変化を感じた。
- ・まち歩き点検で得た意見が、後日反映されていて、自分たちの活動の結果を実感できたのが嬉しかった。